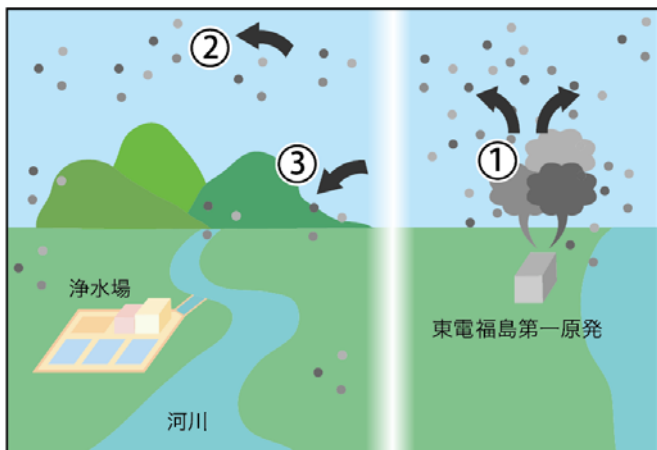
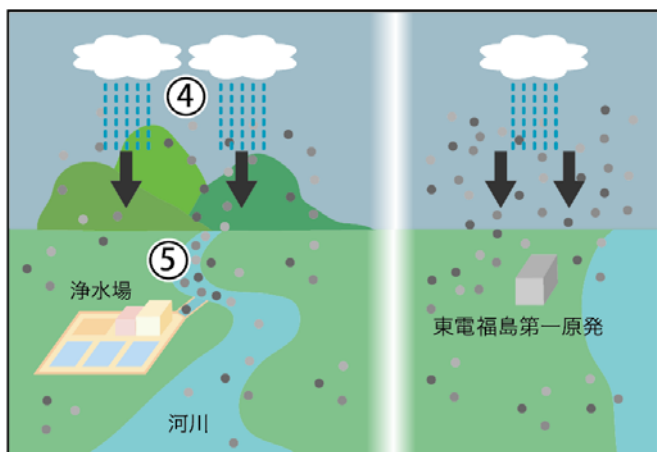


放射性物質の水道水への影響メカニズムの概念図

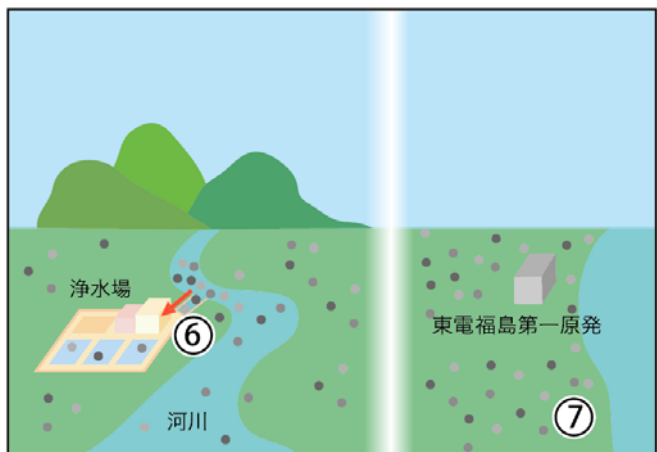
【事故発生直後の影響メカニズム】



- ①比較的短期間に放射性物質が大気中へ大量放出。
- ②放射性物質が風で拡散、福島県内や関東地方に飛来。
- ③拡散した一部が地表面に降下（乾性沈着）。

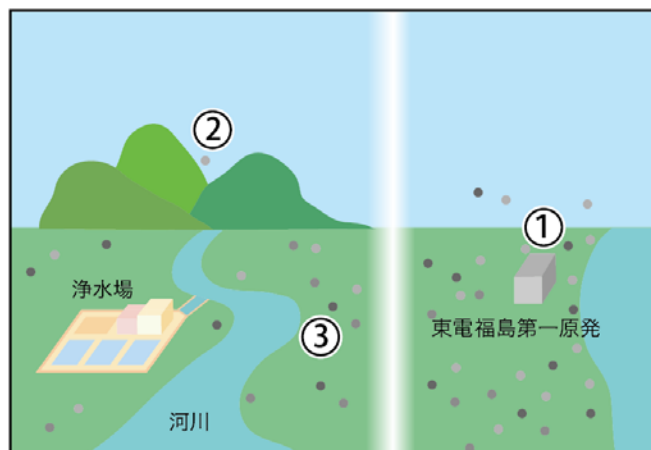


- ④雨で放射性物質が地表面に大量に降下（湿性沈着）。
- ⑤乾性沈着と湿性沈着により降下した放射性物質が雨水とともに河川に流出。

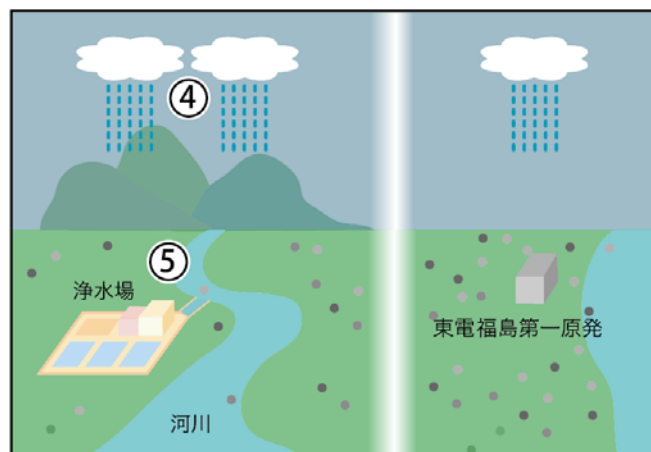


- ⑥放射性物質を含む河川水が水道原水の取水口に流入。
一部の浄水場や給水栓で放射性物質が検出。
- ⑦放射性セシウムは地下に容易に浸透せず地表面に残留。

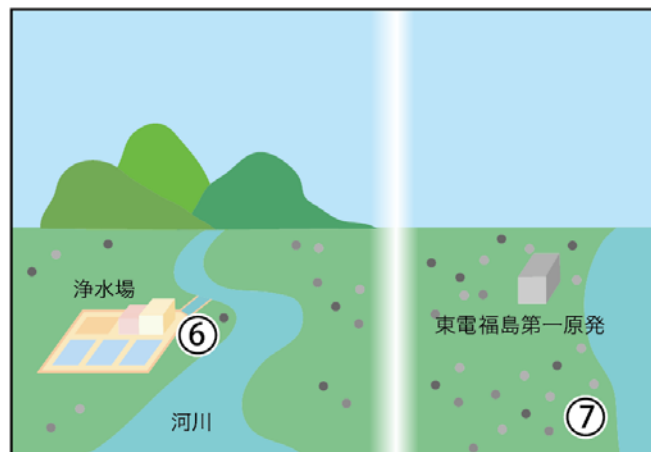
【放射性物質放出の減少以降の影響メカニズム】



- ①放射性物質の放出量は大幅に減少した状況で推移。
- ②福島県近隣地域以外では空間線量は平常時の範囲内に。
- ③放射性セシウムは地表面に残留。



- ④大気中の放射性物質は事故後の雨ですでに減少。
- ⑤強い降雨時には、放射性セシウムの吸着した土壌等が河川に流出し、水道原水に流入する可能性がある。



- ⑥放射性セシウムが水道原水に流入しても、濁度管理・通常の浄水処理により濁質成分とともに除去される。
- ⑦放射性セシウムは地下に容易に浸透せず地表面に残留。